

令和 8 年 9 月 10 日

令和 7 年度の自己点検結果と令和 8 年度の教育活動方針

自己評価委員会

1. 令和 7 年度の自己点検

令和 8 年 5 月 1 日における在 student 数は、学部生 1,133 人（収容定員充足率 83.3%）、大学院生 12 人（同 40.0%）、助産学専攻生 6 人（同 60.0%）で合計 1,151 人であった。各学科の在 student 数は、経営学科 207 人（同 103.5%）、福祉学科 83 人（同 34.6%）、こども学科 193 人（同 96.5%）、健康スポーツ科学科 353 人（同 88.3%）、看護学科 297 人（同 92.8%）であった。

令和 7 年度学部卒業生は、252 人で、経営学科 33 人、福祉学科 18 人、こども学科 46 人、健康スポーツ科学科 86 人、看護学科 69 人であった。また、大学院生 3 人、助産学専攻生 7 人が修了した。

学部卒業生 252 人中 238 人が就職希望者であり、238 人の就職が内定して内定率は 100% を達成し、実就職率は 94.8% であった。

令和 7 年度に実施した入試については、令和 8 年度の入学者数は 287 人（入学定員充足率 84.4%）であった。各学科の入学者数は、経営学科 60 人（同 120.0%）、福祉学科 16 人（同 26.7%）、こども学科 56 人（同 112.0%）、健康スポーツ科学科 73 人（同 73.0%）、看護学科 82 人（同 102.5%）であった。

令和 7 年度活動方針に対する自己評価は以下の通りである。

(1) 認証評価の準備

（評価）ほぼ計画通りであった。

認証評価実施委員会を稼働し、認証評価を前提とした自己点検評価書様式の作成、自己評価ルーブリックの作成、外部評価委員会設置準備等を開始した。

(2) 福山平成大学中期計画を踏まえた学部・学科・研究科改革の推進

- ① 教育改革の継続
- ② 必要な組織改革（教職課程対応を含む）
- ③ その他

（評価）計画通りに行かなかった。

教育改革、教職課程対応、外部評価の実施等は継続課題となった。

(3) 学生募集および広報強化

- ① 4 学科の入学定員充足と 1 学科の入学者増加、全学の充足率 90%以上
- ② 学科改革の推進と強みの更なる強化
- ③ 効果的な高校訪問、高大連携の実施
- ④ 広報力の強化

（評価）学生募集については、計画通りにはいかなかったが広報力強化についてはほぼ計画通りであった。

全学入学定員充足率は 88.5%、入学定員を満たした学科は 5 学科中 3 学科に留まった。他方、情報発信力は SNS の積極活用や広報アンバサダーの活躍等により強化された。

(4) 学修支援、就職支援の充実

- ① 就職率 100%の達成と実就職率の引き上げ
- ② 学生満足度の向上、学生成長の見える化と実現
- ③ 国家資格・重点資格合格率の引き上げ

（評価）就職、国家資格についてはほぼ計画通りであった。学生満足度の向上・見える化については未だ不十分であった。

実就職率はわずかに低下したものの、就職率 100%は実現し、15 年連続の 99%以上を達成した。また、国家資格については社会福祉士、介護福祉士、助産師の合格率 100%を達成し、看護師、保健師も高い合格率を維持した。

(5) 研究力の強化

- ① 科研費申請・採択件数の一層増加、外部資金の獲得
- ② 「少子高齢化時代における本学の地域貢献」をテーマとする文科省公募への挑戦
- ③ 学会誌等への投稿、出版

（評価）ほぼ計画通りであった。

科研費申請件数は 29 件と、令和 5 年度の 19 件から増加し、採択件数も増加した。

(6) 社会連携の推進

- ① 地域貢献、神な備の活用、まなびステーション
- ② 教育と結びついた地域協働、アクティブ・ラーニング

（評価）ほぼ計画通りであった。

(7) キャンパスのさらなる活性化

- ① 大学行事、課外活動等への学生の主体的参加促進
- ② 海外研修、国際交流

③ マナーアップ、全面禁煙化の推進

（評価）「学生の主体的参加促進」については、不十分であったがその他項目はほぼ計画通りであった。

(8) ウェルビーイングの向上

① 働き方改革、業務効率化

② 働きがい、教員表彰

③ 良好な人間関係、教職協働

（評価）ある程度改善が見られた。

予約メールの活用等により休日メールが減少の効果があった。

2. 令和8年度の教育活動方針

(1) 認証評価の準備

① 基準に合わせた自己点検評価書の完成

② 教育の質向上の教学マネジメント体制、PDCAサイクルの強化

③ 外部評価の実施

(2) 福山平成大学中期計画を踏まえた学部・学科・研究科改革の推進

① 教育改革の継続

② 必要な組織改革（教職課程対応を含む）

③ 新中期計画の検討

(3) 学生募集および広報強化

① 入学定員充足率 90%以上、4 学科の入学定員充足

② 学科改革の推進と強みの更なる強化

③ 効果的な高校訪問、高大連携の実施

④ 広報力の強化、大学 HP の改善

(4) 学修支援、就職支援の充実

① 就職率 100%の達成と実就職率の引き上げ

② 学生満足度の向上、学生成長の見える化と実現

③ 国家資格・重点資格合格率の引き上げ、競合大学比較優位の確立

(5) 研究力の強化

① 科研費申請・採択件数の一層増加、外部資金の獲得

② 「少子高齢化時代における本学の地域貢献」をテーマとする文科省公募への

挑戦

- ③ 学会誌等への投稿、出版

(6) 社会連携の推進

- ① 地域貢献、神な備の活用
- ② 教育と結びついた地域協働、アクティブ・ラーニング

(7) キャンパスの更なる活性化

- ① 大学行事、課外活動等への学生の主体的参加促進
- ② 海外研修、国際交流の満足度向上
- ③ マナーアップ、全面禁煙化の推進

(8) 本学に適した DX 化の推進

- ① 教育
- ② 研究
- ③ 業務効率化

(9) ウェルビーイングの向上

- ① 働き方改革、業務効率化
- ② 働きがい、教員表彰
- ③ 良好な人間関係、教職協働